

# セミナーヨは桜馬場地区に



有家史談会の2人が研究成果を発表した大会  
＝南島原市有家町、ありえコレジヨホール

## 県地方史研究会南島原大会

### 史談会員が成果発表

県内の史談会でつくる県

露した。

有家史談会の生駒輝彦副

地方史研究会（原田博二会長）の研究発表会南島原大会が23日、南島原市であり、地元史談会の2人が、16世紀末に有家に置かれた神学校

の所在地や、島原城を造った大名、松倉重政の「野望」に関する研究成果を披

教師の報告集を基に、北に約1.5キロ離れた桜馬場地区のとりでにあったと発表。根拠として、とりでと関連がある「馬場」が地名に入っていることや、一帯が中心部から離れた静かな環境だったため、安全性の確保が必要だった当時の政治情勢に合うことを指摘。「セミナーヨや司祭館などが置かれていた」と結論つけた。

同史談会コレジヨ文化講座の福田八郎座長は、松倉重政の島原城築城に関し、「石高4万数千石にしては立派な城。海外進攻の拠点とする意図があったのではないか」と分析。江戸幕府からフィリピンのルソン島攻撃の許可を得ていたことを解説した。

大会には約250人が参加。原城跡などを巡る研修もあった。（角村亮一）

2013.11.26  
長崎新聞